

「考えの中心」

～党派心（自己中心）に注意～

ピリピ 2:2~14

今までに嘘をついた事の無い人はだぶんいないのではないのでしょうか？人間が一日に嘘をつくだろうと言われていた回数は少ない人で一日20回、多い人では200回も嘘をつくと言われていました。一つ嘘をつく、その嘘の為にまた嘘をつく…。そのようにして嘘に嘘を上塗りし、私達は知らず知らずのうちに自分で自分を洗脳して行っていることがあります。洗脳により私達は事実でない事を言い聞かせていつしか事実だと本当に思い込んでしまうようになってしまいます。それはとても恐ろしい事です。それらの考えの中心は自己中心からきます。そこで聖書はこのように言っています。『何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。』（ピリピ2：3）この「自己中心」とは「党派心」と置き換えられます。【党派心】1つの党派だけに傾いた心。自分の仲間だけに偏った心。また【虚栄】①実質の伴わないいわばだけの榮譽。②自分を実質以上に見せようとする見栄を張りたがる心。という意味です。聖書は私達に自分の自己中心から偏った価値観で事を行ってはいならないと語っているのです。今あなたの願っていることは【党派心（自己中心）】・【虚栄】からになっていないのでしょうか。自分の利益の為に願いで、神様の事もその願いの為に神様になってはいないのでしょうか？自分の都合の良い事だけを聞いて下さる神様なら、イエスキリストでなくともロボットでもよい事になります。私達の心の中心が自己中心であるなら、あなたの目標・目的・手段が的を外していきます。そうになっている人は嘘をつきます。それがバロメーターです。あなたの求めているものは何の為なのか。今一度考え直してみましよう。心の中心が自分のためなのか？そうではないのか。心の中心にイエスキリストを置いているなら結果あなたのこの世での人生は祝福され満たされた人生になります。しかし、祝福に満ちた人生はあくまでも結果ついてくるものなのです。「自己中心」はアダムとイブの時からある私たちの罪です。ですからイエス・キリストは、自己中心に歩まず、私たちが持つ様々な欲を知った上で、その欲に打ち勝つ生活を行いました。それができたのは、神様を心の中心に置いていたからです。だからこそ彼のした行動は偽善者とは言われませんでした。私たちが何かをする時に、自分の利益のためにするから「偽善者」と言われてしまうのです。これでは天に宝が積まれることはなくこの地で「虚栄」を張っているだけになってしまいます。あなたが求めていることが自分の利益のためなのか何なのか、これを考えることがパリサイ人やクリスチャンの違いになるのです。神はできないことをせよとは言いません。せつかくよいことをしても、あなたの心の腐ったところから出ていたのでは意味がないのです。あなたの願っていることが家族や周りの人の幸せであっても、それが自分のためなら意味がないのです。ユダヤ人はメシアを待っていましたが、その理由は自分たちを立派だと言って欲しかったからです。私たちの多くは、最終的に自分の利益を求めて行動してしまいます。結果それならよいのです。しかし「自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命を失う者は、かえってそれを得る。」（マタイ10:39）のです。聖書はあなたに無理しろとも貧しい人生を歩めとも言っていません。しかし目標が自分の利得ではいけないのです。「イエス・キリストにあってあなたが正しく歩むならこの地で豊かになる」と約束していますが、これはあくまで結果です。今、もし願っても聞かれないとすればそれはあなたのために願うからです。だからこそあなたの中心が何なのか大切なのです。何のために働くのか、家族をなぜ守りたいのか、この意味をしっかりと自分の中で結論づけていないと目標と結果を失い脱線（的を外す＝ハマルティア）してしまいます。イエス様を心の中心に置いているとはこの様な心です。（1コリント13:5～）パウロは自分のためによくなってほしいのではなく、自分は悪く言われる存在でもよい、ただただ、コリントの人たちによくなってほしいのだと伝えています。本当によいものであれば嘘をつく必要なんてありません。私たちはもう一度自分を見つめなおす必要があります。①誰を中心にするか。何をするにも誰のためにするのか考えてください。「食べるのも飲むのも神の栄光のためにしなさい。」家庭で家族や両親と接するのも職場で人々に接せるのも神の栄光を流すためだと考えることが大切です。何をするにも神を中心に行っているかももう一度考えてみてください。神様はいつもあなたのそばにいます。都合よく神様を中心に置いたり外したりしないでください。②あなたを吟味。いつもあなたの中心に神がいるか吟味してください。今のあなたの考え方や意見は本当に正しいかどうか、どんな事も神様に聞いて下さい。心の王座をいつも神様にしましょう。③パリサイ人になるな。神様は私たちの心のパリサイ人つまり偽善な部分を取りたいのです。正しいことを言っても心の内がどうなのか探ってください。自分たちがほめられるために何かをするではありません。神様がして下さった感謝を自分の隣人に表すためにするのです。だから互いに人を自分よりもすぐれた者と思うことが大切なのです。私たちの人生が正しくなるために、もう一度、あなたの心が自己中心でないか、神様を自分のために使っていないか、隣の人をきちんと愛せているかどうか確かめてください。近くにいてる人に対して偽善的（心と言葉が裏腹）な態度になっているならこれこそパリサイ人です。一人でいる時こそ私達の真価が問われます。言葉と行いが伴う生活を送っていきましょう。その結果、あなたには祝福の人生が待っていますよ。